

殺虫・殺ダニ剤(気門封鎖剤)
殺菌剤・展着剤

フーモン®

殺虫剤分類 — 殺菌剤分類 —

- 種類: ポリグリセリン脂肪酸エステル乳剤
- 成分: ポリグリセリン脂肪酸エステル……82.5%
界面活性剤……17.5%
- 性状: 淡黄色可乳化油状液体
- 包装: ポリ容器 (500ml×20本/ケース)

農林水産省登録
第23741号

特長

- 1000倍の高希釈倍率で、野菜類や果樹類に使用できます。
- アブラムシ類、ハダニ類、コナジラミ類、うどんこ病を同時に防除します。
- 有効成分がすばやく害虫を包囲し、気門封鎖で窒息死させます。
- 収穫前日まで何回でも使用できます。
- 展着剤(殺虫剤・殺菌剤)として使用できます。



適用病害虫
と使用方法

●殺虫・殺ダニ剤、殺菌剤として使用する場合

作物名	適用病害虫名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	ポリグリセリン脂肪酸エステルを含む農薬の総使用回数
なし	ハダニ類、アブラムシ類	1000倍	200~700ℓ /10a	収穫前日まで	—	散布	—
りんご	うどんこ病						
果樹類(りんご、なしを除く)	ハダニ類						
野菜類	うどんこ病、ハダニ類 アブラムシ類、コナジラミ類	150~500ℓ /10a					
とうもろこし きく	ハダニ類						

●展着剤として使用する場合

適用農薬名	作物名	使用量(希釈倍数)	使用方法
殺虫剤 殺菌剤	野菜類	10ml/散布液10ℓ(1000倍)	添加
	果樹類(りんごを除く)		
	りんご		
		5~10ml/散布液10ℓ(1000~2000倍)	

上手な
使い方

フーモンは物理的に対象害虫の気門を封鎖する剤であり、薬剤散布液が対象害虫に直接かからないと防除効果が発揮されません。薬剤が十分にかかるように、ムラなく、葉裏も含めていねいに散布してください。



薬剤抵抗性発現を避けるために、対象害虫の密度を下げるローテーション剤としてもお使いいただけます。

対象害虫の密度が上がる前に散布してください。発生が多い場合には、散布間隔を短くして散布してください。

展着剤は加用しないでください。

殺虫活性の記号は、社内試験および公的委託試験の結果から当社独自に判断したものです。

殺虫
スペクトル

ハダニ類			アブラムシ類		コナジラミ類		
卵	幼虫	成虫	幼虫	成虫	卵	幼虫	成虫
△	○	○	○	○	△~×	○	○

○:防除効果が期待できる。 △:防除効果が弱い。 ×:防除効果が期待できない。

▲効果・薬害等の注意

- 使用量に合わせ薬液を調整し、使い切ってください。
- 散布液調整の際はよくかき混ぜ、調整後はなるべく早く使用してください。
- 本剤薬液が害虫にむらなくかかるよう葉の裏表に丁寧に散布してください。散布液が直接害虫にかからないと効果が期待できない場合があります。
- 本剤は残効が短く、害虫の卵に対して効果が劣るため、害虫の増殖期やほ場外からの飛び込み盛期には、5~7日間隔の連続散布で使用するか、他剤とのローテーション散布で使用してください。
- 散布水量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調整してください。
- 散布直後の降雨が予想される場合は使用をさけてください。
- 作物の幼苗期や軟弱徒長苗、高温時には使用しないでください。
- おうとうの果実に薬害を生じるおそれがあるので、果実のある時期は使用をさけてください。

- ストロビリリン系薬剤との同時施用及び近接散布は、薬害を生じるおそれがあるのでさけてください。
- 防除効果が低下するおそれがあるため展着剤は加用しないでください。
- 展着剤としての使用に当たっての注意
 - ・使用農薬の使用条件や使用上の注意事項を厳守してください。
 - ・使用農薬の使用上の注意事項に薬害の生じやすい作物、気象条件などが記載されている場合には、本剤の使用をさけてください。
- 果実が果粉を形成する果樹類に使用する場合、果粉の溶脱を生じるおそれがあるので無袋栽培の果実や有袋栽培の袋かけ前の果実がある時期は使用をさけてください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることをおすすめします。

▲安全使用上の注意

- 眼に入らないよう注意してください。眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 使用残りの薬液が生じないよう調整し、使いきってください。散布器具、容器の洗浄水等は河川に流さず、周囲に影響のない方法で処理してください。空容器は環境に影響のないよう適切に処理してください。
- 火災時の措置: 火災時は、適切な保護具を着用し水・消火剤等で消火に努めてください。
- 漏出時の措置: 漏出時は、保護具を着用し布・砂等に吸収させ回収してください。
- 輸送上の注意: 移送取扱いは、ていねいに行ってください。
- 廃棄上の注意: 使用量に合わせ薬液を調整し、使い切ってください。
- 保管: 密栓し、直射日光を避け、食品と区別して冷涼な所に保管してください。

●使用前にはラベルをよく読んでください。 ●ラベルの記載以外には使用しないでください。 ●小児の手の届く所に置かないでください。

この印刷物は2024年9月現在の登録内容に準拠して作成しました。

フーモンの
最新情報・混用事例集は
こちら



日本化薬株式会社

東京都千代田区丸の内二丁目1番1号(明治安田生命ビル)
TEL.03-6731-5321 FAX.050-3730-0682

DPFUM0027Y2409Z4000



殺虫剤として
なしのアブラムシ類で
使用できるようになりました!

1000倍希釈で
効かせます!

- ◆果樹類と野菜類のハダニ類を効果的に防除する気門封鎖剤です。
- ◆野菜類のアブラムシ類・コナジラミ類・うどんこ病対策にも使えます。



殺虫・殺ダニ剤(気門封鎖剤)
殺菌剤・展着剤

フーモン®

フーモンは日本化薬株式会社の登録商標です。

気門封鎖剤とは! ▶ 害虫の気門(空気の出入り口)をふさぐことで、窒息死させる薬剤です。

有効成分が害虫を
すばやく狙いうち!!

フーモン®

とは 食品添加物を有効成分とし、微小害虫の気門を効果的に封鎖して致死させ、うどんこ病の発病も阻害する殺虫・殺ダニ・殺菌剤です。



作用機構

有効成分であるポリグリセリン脂肪酸エステルは、水に希釈された状態でも油成分に集まる性質があります。そのため、油分のある微小害虫(ハダニ類、アブラムシ類、コナジラミ類)に効率的に集まり、気門を封鎖して窒息死させます。

ハダニ類

アブラムシ類

コナジラミ類

うどんこ病

薬剤散布液の掛かったハダニ類、アブラムシ類に有効成分が引き寄せられます。



有効成分がすばやく周りにまとわりつきます。



気門封鎖(窒息死)



成虫は、張り付いて窒息死。



幼虫は、油滴が覆って窒息死。



うどんこ病の胞子の発芽や分生子柄の形成を阻害するため、発病を効果的に抑制します。



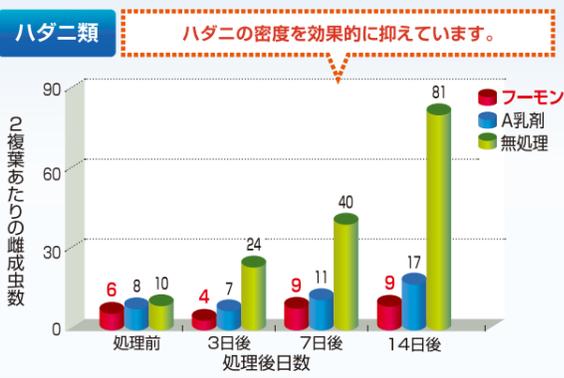
フーモンの胞子発芽と分生子柄の形成阻害効果

フーモン®

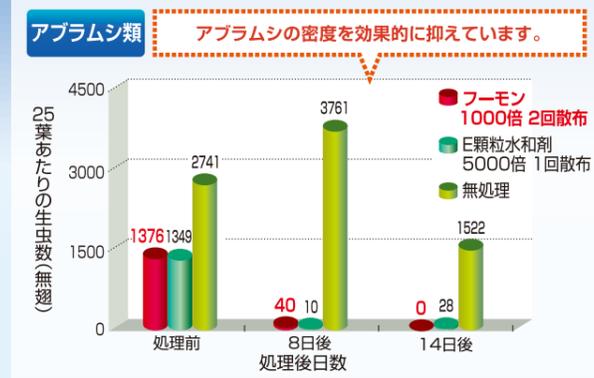


うどんこ病は、葉面等に付着した胞子が発芽して、植物体から直接栄養摂取しながら繁殖します。さらに分生子柄に連鎖的に新しい胞子を形成し飛散しながら拡散します。フーモンはこの胞子の発芽を抑制したり、分生子柄の形成を阻害するためにうどんこ病に効果があります。

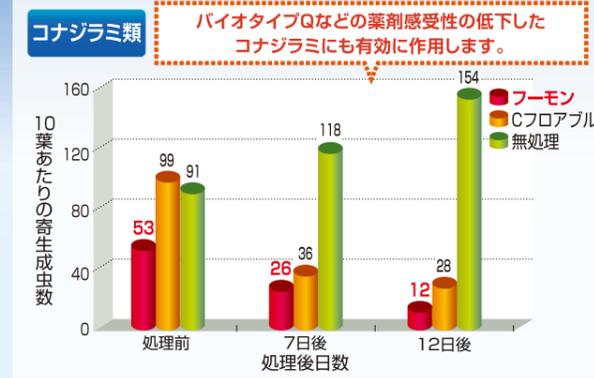
委託試験成績



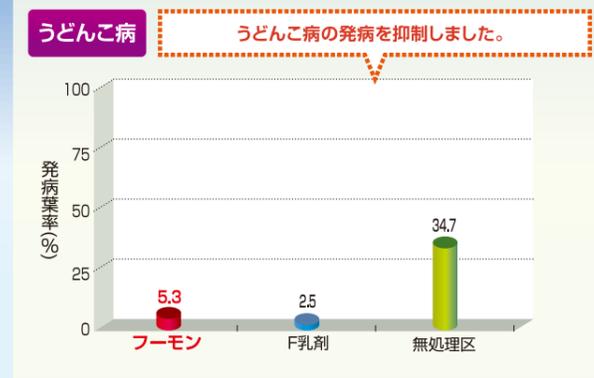
平成23年度 群馬県農業技術センター
 作物:イチゴ(やよいひめ) 区制面積:1区14株 3連制
 対象害虫:ナミハダニ(緑黄色型) 処理:6/7(1回目散布)、6/14(2回目散布)
 定植:H22.9/16 調査日:6/7(処理前)、6/10(処理3日後)、6/14(処理7日後)、6/21(処理14日後)
 発生状況:多発生



平成23年度 (公社)石川県植物防疫協会
 作物:きゅうり(北進) 区制面積:2.9m²/区 6株3連制
 対象害虫:アブラムシ類(ワタアブラムシ) 処理:6/9(1回目散布)、6/14(2回目散布)(対照薬剤は1回散布のみ)
 定植:H23.5/5 調査日:6/9(処理前)、6/17(最終処理3日後)、6/23(最終処理9日後)
 発生状況:中発生



平成24年度 (一社)日本植物防疫協会 宮崎試験場
 作物:きゅうり(輝世紀) 区制面積:5.8m²/区 3連制
 対象害虫:タバココナジラミ(バイオタイプQ) 処理:11/8(1回目散布)、11/15(2回目散布)
 定植:H24.10/4 調査日:11/8(処理前)、11/15(処理7日後)、11/20(処理12日後)
 発生状況:少発生



平成25年度 宮城県農業・園芸総合研究所
 作物:いちご(もういっこ) 区制面積:2.2m²/区 10株3連制
 対象病害:うどんこ病 処理:7/2(1回目散布)、7/8(2回目散布)、7/16(3回目散布)
 定植:H24.10/2 調査日:7/24(最終散布8日後)
 発生状況:中発生